

「最近の機械貿易動向(5月)～機械輸出伸び率16ヶ月連続プラス～」

日本機械輸出組合 2018.7.20

平成30年5月の機械輸出額は3兆9,711億円、対前年同月比6.5%増と、16ヶ月連続でプラスとなった。これは、①韓国・台湾、EU向けを除く4地域向けがプラス成長となったこと、②自動車をはじめ、主要な11輸出業種がプラスとなったことなどによる。為替・営業日要因が4.4%の増加寄与要因だったことを考慮すると、実質的な伸び率は2.1%増となった。平成30年6月の為替・営業日要因は4.8%の減少寄与要因となっているが、7月19日発表の貿易統計速報による簡易計算では6月の機械輸出は5.6%増であった。

I 要約

1. 全商品貿易動向(図表1)

- ① 全商品輸出額:6兆3,236億円(前年同月比 [以下同じ] 8.1%増、18ヶ月連続プラス)
- ② 全商品輸入額:6兆9,040億円(14.0%増、2ヶ月連続プラス)
- ③ 貿易収支:5,805億円赤字、4ヶ月ぶり赤字

2. 機械貿易動向

(1) 機械輸出入動向(図表2)

- ① 機械輸出額:3兆9,711億円(6.5%増、16ヶ月連続プラス)
為替・営業日要因を除いた実質的伸び率:2.1%増(20ヶ月連続プラス)
- ② 機械輸入額:2兆1,496億円(11.6%増、15ヶ月連続プラス)

(2) 為替・営業日動向

2018年5月に4.4%の増加要因、6月に4.8%の減少要因、7月に5.4%の増加要因となる。

(3) 地域別動向

- ① 韓国・台湾、EU向け以外の4地域向けがプラス(図表4、5)
- ② 北米向け:4.4%増、2ヶ月連続プラス(図表4、5)
- ③ 中国向け:12.5%増、3ヶ月連続プラス(図表4、5)
- ④ ASEAN・南アジア向け:9.7%増、18ヶ月連続プラス(図表4、5、6、8、9)
- ⑤ EU向け:0.4%減、16ヶ月ぶりマイナス(図表4、5)
- ⑥ 韓国・台湾向け:2.2%減、4ヶ月連続マイナス(図表4、5、6、7)
- ⑦ その他地域向け:10.9%増、11ヶ月連続プラス(図表4、5、10)

(4) 業種別動向(図表11)

上位21業種中17業種がプラス。そのうち11業種が二桁の伸び

(5) 機種別動向(図表12、13)

- ① 電動機(中国、EU向け中心、3ヶ月連続上位)、半導体製造装置(中国、韓国・台湾向け中心、3ヶ月連続上位)、コンデンサー等部分品(中国、ASEAN・南アジア向け中心)、電池(北米、中国向け中心)、電気・電子計測器(中国、韓国・台湾、ASEAN・南アジア、北米向け中心)等が大きくプラス
- ② 建設機械(北米、その他地域向け中心、4ヶ月連続上位)、陸用内燃機関(北米、中国、EU向け中心、3ヶ月連続上位)等も好調に輸出が継続
- ③ 船舶、発電機等が大きくマイナス

(6) 機械輸入動向(図表14)

- ① 機械輸入額上位12機種のうち、10機種がプラス
- ② そのうち電子デバイス、航空機・部品等、自動車部品、風水力機械の4機種が二桁以上のプラス

II トピックス

1. インドにおいて SUV 販売が好調。EV 市場にも注目が集まる

インドの 2017 年度（2017 年 4 月～2018 年 3 月）の乗用車の新車販売は 328 万台と、前年度比 8% 増と好調だった（これまで小型車中心だったが、SUV の人気が高まっており、販売台数は 3 年前の 1.7 倍に増えた）。商用車との合計では約 10% 増の 414 万台となり、ドイツを上回り世界 4 位の市場に成長した。

インド市場での電気自動車（EV）にも注目が集まる。シン電力相は、2030 年までに国内自動車の 30% を EV にすべきだと発言し注目を集めた。EV 分野で先行するマヒンドラは、2020 年から年間 60,000 台の EV を製造する。マルチは年間 35,000 台の EV 生産を計画している。タタはすでに政府機関向けに EV を納入した実績があり、自動車ショーでは EV の展示に力を入れている。また、このほど社内に EV 専門の部署を設立した。

EV の普及には充電設備の整備が不可欠であり、この分野において日本企業の商機が見込まれ、経済産業省も充電設備の輸出支援に本腰を入れつつある。

2. ロシアは原油回復を背景に経済がプラス成長に。エネルギー産業も好調を維持

ロシアの 2017 年の経済成長率は前年比で 1.5% 増となった。個人消費や主力輸出品である原油価格の回復を受けて、3 年ぶりのプラス成長となった。ロシア政府は 2018 年の成長率として 2.1% を目標とするが、IMF は 1.7% 成長を予測している。

ロシアのマクロ経済は安定しており、インフレ率は 2% 台の歴史的な低水準にある。経済収支もプラスに転じるとみられている。インドなど他の新興国が相次いで利上げに動くなか、ロシア中央銀行は政策金利を 7.25% に据え置いている。

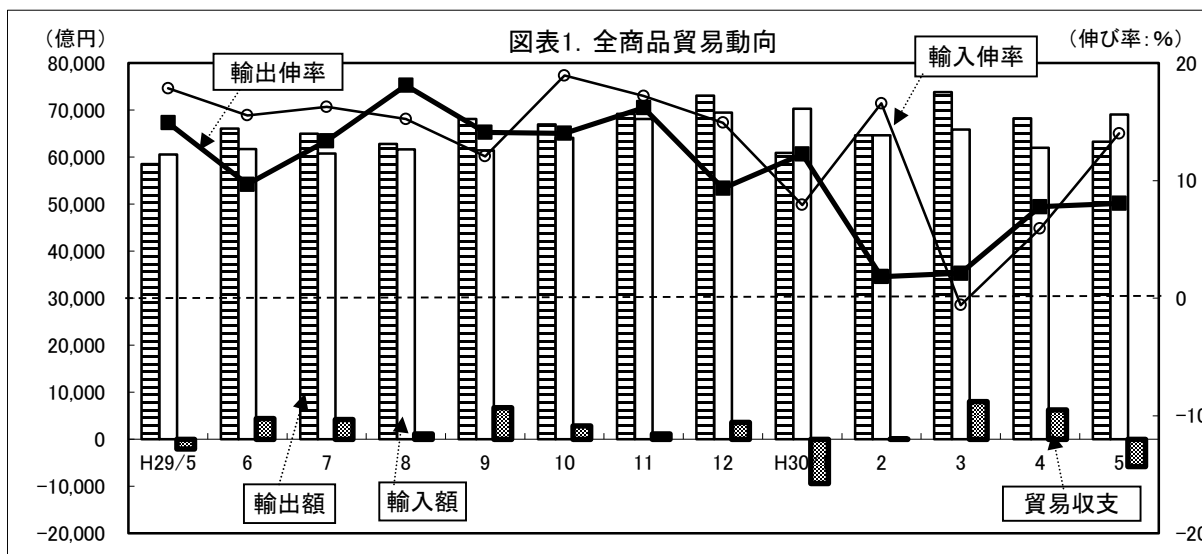
西側諸国の制裁にも関わらず、ロシアのエネルギー産業は好調である。ガス最大手のガスプロムの 2018 年第 1 四半期の純利益は、前年同期比 11% 増の 59 億ドルに達した。石油大手ルクオイルの同四半期の純利益も、75% 増の 17 億 5,000 万ドルに増加した。ロスネフチも大幅に純利益を拡大させた。

原子力産業も競争力を高めている。3 月には、国営ロスアトムによるトルコ初の原子力発電所の建設が始まった（総事業費は 200 億ドルにのぼる）。この他、エジプト初の原発建設にロシアが協力することで合意した。イラン南部でも原発を建設する計画である。ロスアトムの強みは、政府の手厚い支援を背景に、融資から再処理まで一貫して請け負う点にある。また、このほど世界初の船舶型原子力発電所の曳航を行った。

Ⅲ 個別動向

1. 全商品貿易動向～輸出は18ヶ月連続プラス、輸入も2ヶ月連続プラスへ～

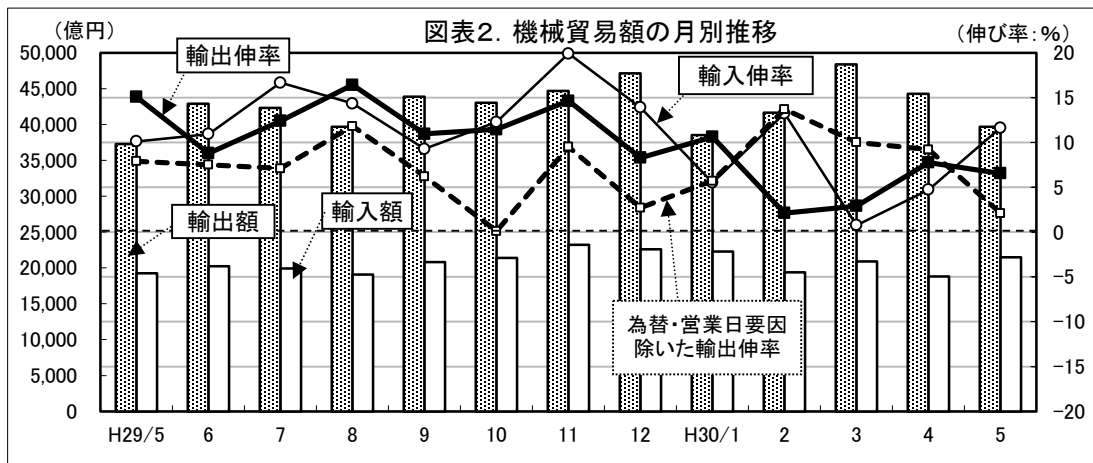
- 1) 平成30年5月の全商品輸出額は**6兆3,236億円**、前年同月比(以下同じ)**8.1%増**と18ヶ月連続でプラスとなった(4月7.8%増)。これは、全輸出額の約21%を占める一般機械(9.9%増)をはじめ、約17%を占める電気機器(11.3%増)、鉄鋼・非鉄金属等原料別製品(10.7%増)、プラスチック等化学製品(12.5%増)等がプラスとなったためである。
- 2) 輸入額は**6兆9,040億円**、**14.0%増**と2ヶ月連続でプラスとなった(4月5.9%増)。これは、全輸入額の約21%を占める原粗油等鉱物性燃料(20.7%増)が17ヶ月連続でプラスとなったほか、約11%の医薬品等化学製品(19.1%増)、鉄鋼・非鉄金属等原料別製品(15.6%増)等が大きく増加したことによる。
- 3) この結果、輸出額から輸入額を差し引いた貿易収支は、約5,805億円と4ヶ月ぶりに赤字となった。(4月は6,246億円の黒字)。



2. 機械貿易動向

(1) 機械輸出入動向～輸出は16ヶ月連続、輸入も15ヶ月連続でプラス～

- 1) 全商品輸出額の約63%を占める5月の機械輸出額は**3兆9,711億円**、**6.5%増**と16ヶ月連続でプラスとなり(4月7.8%増)、その水準は、リーマンショック前(2008年5月)と比べると**88.2%**となって、前月に比べて6.1ポイント悪化した(4月94.3%)。なお、為替・営業日要因を除いた**実質的伸び率**は**2.1%増**であった。
- 2) 一方、全商品輸入額の約31%を占める機械輸入額は、**2兆1,496億円**、**11.6%増**と15ヶ月連続でプラスとなり(4月4.7%増)、リーマンショック前(2008年5月)の水準に比べ、40.2%増となっている。

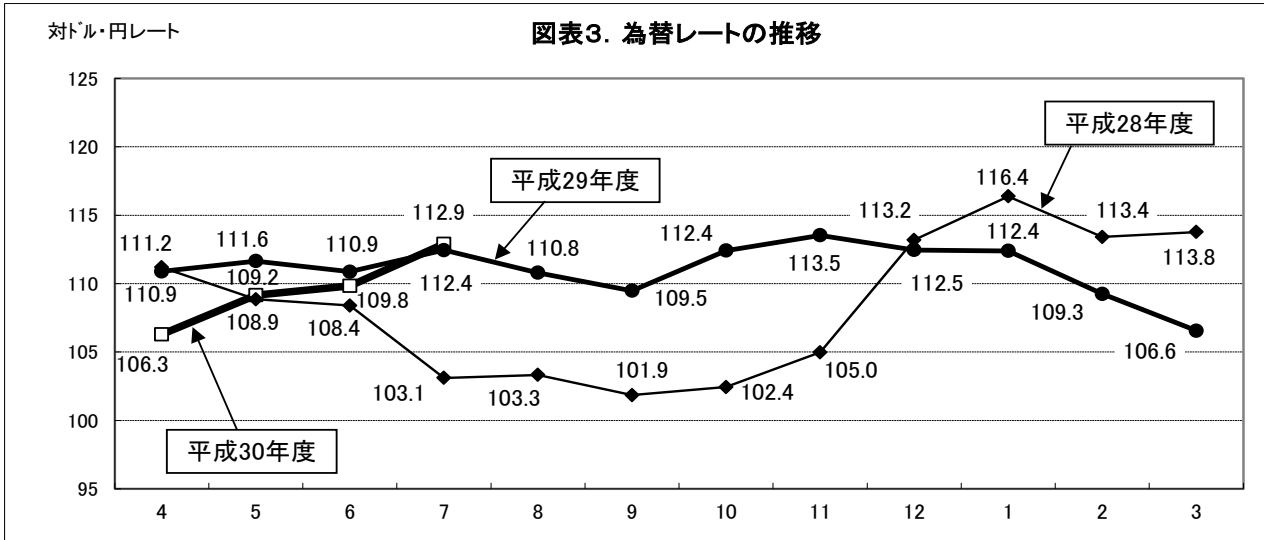


(2) 為替・営業日動向～5月は4.4%の増加要因、6月は4.7%の減少要因～

1) 2018年5月は1ドル=109.2円となり、前年に比べ2.2%の円高となった。また、対ユーロは131.6円と前年に対して8.5%の円安となり、合わせて約0.6%の為替減少要因となった。営業日は前年に比べて1日多いため、約5.0%の増加要因となり、合計で約4.4%の増加要因となる。5月の輸出額は6.5%増であったことから、実質的伸び率は2.1%増と20ヶ月連続プラスとなった(4月9.2%増)。

2) 2018年6月は1ドル=109.8円で前年比1.0%の円高、対ユーロは128.7円で前年比3.6%の円安となり、合わせて約0.3%の為替減少要因となった。営業日は前年に比べて1日少ないため、約4.5%の減少要因となり、合計で約4.8%の減少要因となる。

3) 2018年7月は、対ドルが7月19日17:00時点の112.9円とすれば、前年に比べて0.4%の円安、また、対ユーロは131.1円で3.0%の円安となり、合わせて約0.4%の為替増加要因となる。営業日は前年に比べて1日多いため、約5.0%の増加要因となり、合計で約5.4%の増加要因となる。



(3) 地域別動向～韓国・台湾、EU向け以外の4地域向けがプラス～

1) 機械輸出額の地域的動きをみると、①全体の23.8%を占める最大輸出先の北米向けでは、産業機械(1.3%減)等が減少したものの、全体の約48%を占める自動車(1.3%増)をはじめ、航空機部品(5.3%増)、軽電気機械(12.8%増)、建設機械(11.9%増)等が大きく増加して4.4%増となった。②23.2%を占める中国向けでは、産業機械(35.2%増)、自動車(9.8%増)、電子デバイス(4.8%増)等が増加して12.5%増となり、③15.3%のASEAN・南アジア向けは、インド(34.3%増)、ベトナム(17.9%増)等が大きく増加し、業種では、自動車(14.9%増)、産業機械(5.0%増)、電子デバイス(23.3%増)等がプラスとなって9.7%増となった。④12.3%を占めるEU向けは、約35%を占める自動車(17.7%増)、産業機械(8.1%増)がプラスとなったものの、船舶(85.9%減)が大きくマイナスとなって0.4%減となり、⑤10.3%を占める韓国・台湾向けは、電子デバイス(3.0%増)がプラスとなったものの、産業機械(6.3%減)、自動車(1.3%減)等が減少して2.2%減となった。⑥15.1%のその他地域向けでは、中近東(21.8%増)、アフリカ(14.2%増)等向けが大きくプラスとなり、機種では、自動車(10.1%増)、建設機械(29.1%増)等が二桁増となって10.9%増となった。

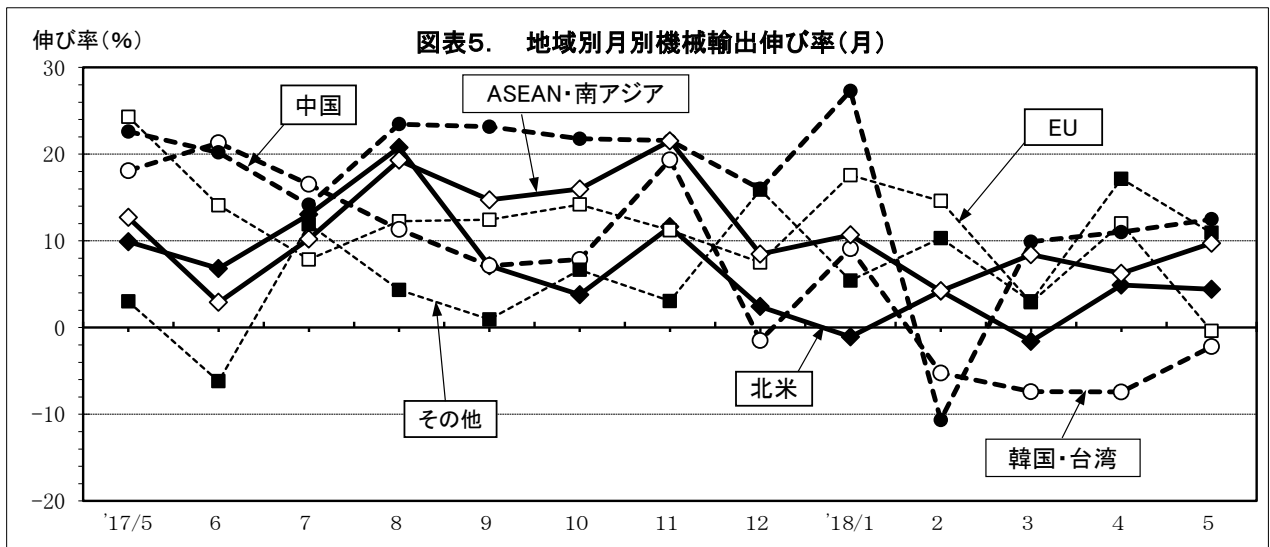
2) また、リーマンショック前の2008年5月の地域別輸出額と比較すると、中国、ASEAN・南アジアが100%を超え、韓国・台湾、北米向けが90%台、その他地域、EU向けが60%台となった。

図表4. 最近の地域別機械輸出動向

(単位: 億円)

	2018/3			2018/4			2018/5			対08年 5月比
	金額	伸び率	シェア	金額	伸び率	シェア	金額	伸び率	シェア	
全世界計	48,412	2.9	100.0	44,313	7.8	100.0	39,711	6.5	100.0	0.88
北米	11,456	▲ 1.6	23.7	11,039	4.9	24.9	9,446	4.4	23.8	0.93
中国	10,699	9.9	22.1	9,800	11.0	22.1	9,211	12.5	23.2	1.08
ASEAN・南アジア	7,348	8.4	15.2	6,482	6.3	14.6	6,091	9.7	15.3	1.03
EU	5,763	2.9	11.9	5,747	12.0	13.0	4,883	▲ 0.4	12.3	0.66
韓国・台湾	4,861	▲ 7.4	10.0	4,152	▲ 7.4	9.4	4,093	▲ 2.2	10.3	0.96
その他	8,285	3.0	17.1	7,094	17.2	16.0	5,988	10.9	15.1	0.68

は、2ヶ月連続で前年比10%以上プラス。

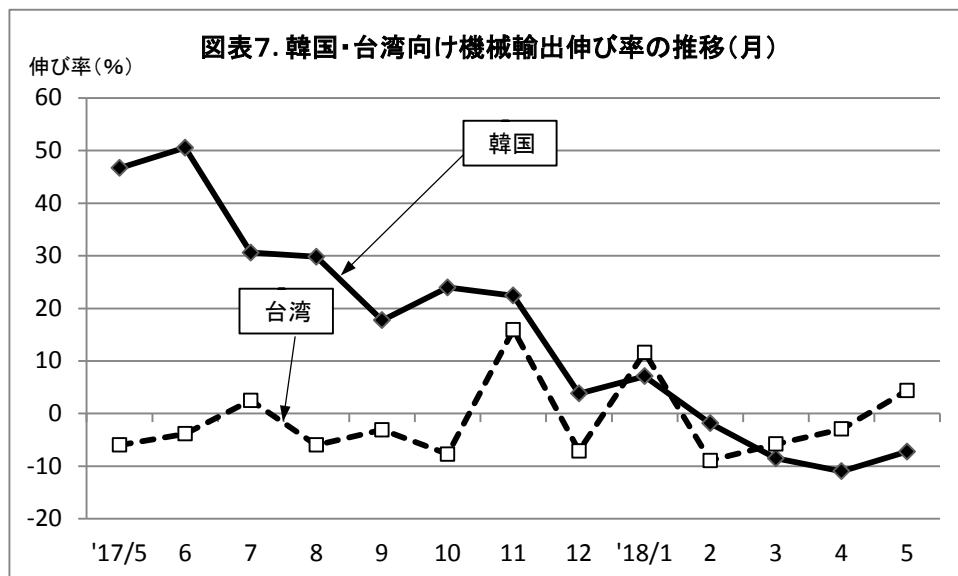


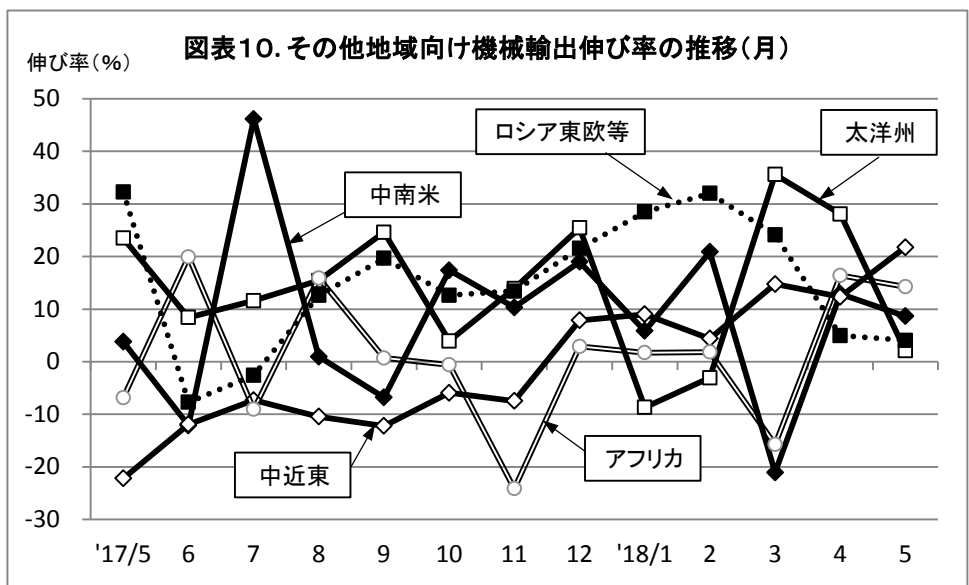
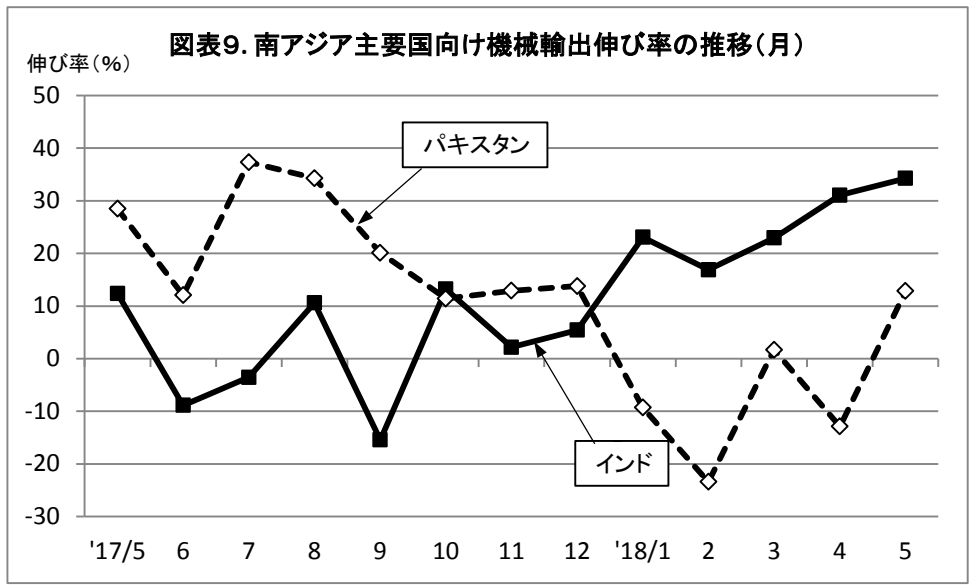
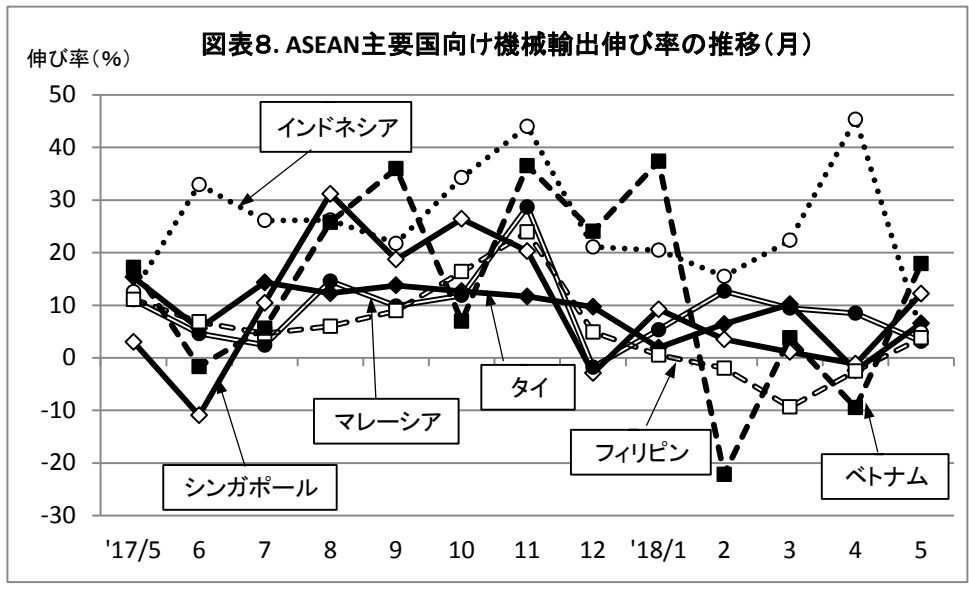
図表6. 韓国・台湾/ASEAN・南アジア/その他地域向け機械輸出の推移(月別)

(金額単位:億円、%)

国名	2018/2		2018/3		2018/4		2018/5	
	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率
韓国	2,276	▲ 1.9	2,782	▲ 8.5	2,227	▲ 11.0	2,208	▲ 7.2
台湾	1,948	▲ 8.9	2,079	▲ 5.8	1,925	▲ 3.0	1,885	4.4
ASEAN・南アジア								
タイ	1,581	6.4	1,785	10.2	1,574	▲ 2.4	1,481	6.6
シンガポール	913	3.5	1,128	1.1	1,000	▲ 1.1	1,004	12.2
インドネシア	820	15.5	997	22.3	976	45.4	686	4.8
マレーシア	674	12.7	802	9.4	674	8.5	632	3.1
フィリピン	634	▲ 2.0	698	▲ 9.4	659	▲ 2.5	654	3.8
ベトナム	594	▲ 22.2	732	3.8	639	▲ 9.5	709	17.9
インド	492	16.9	671	22.9	499	31.0	478	34.3
パキスタン	108	▲ 23.4	176	1.7	164	▲ 12.9	171	12.9
その他地域								
中南米	2,140	20.9	2,324	▲ 21.0	2,163	12.9	1,849	8.7
中近東	1,756	4.4	2,294	14.8	1,577	12.3	1,374	21.8
大洋州	1,350	▲ 3.1	1,664	35.6	1,540	28.1	1,181	2.1
ロシア東欧等	1,251	32.0	1,250	24.1	1,238	5.0	1,012	4.1
アフリカ	463	1.8	636	▲ 15.7	522	16.4	486	14.2

は、2ヶ月連続で前年同月比プラス(10%以上)





(4)業種別動向～21業種中17業種がプラス。うち軽電気機械、重電気機械等11業種が二桁の増加～

1)業種別では、自動車(7.9%増)、産業機械(9.6%増)をはじめ17業種がプラスとなり、前月に比べて1業種増加した。そのうち、軽電気機械(10.6%増)、重電気機械(10.4%増)、軽機械(11.1%増)をはじめ、11業種が二桁の伸びとなり、機械全体では6.5%増となった。

2)リーマンショック前の水準を超えたのは鉄道車両、航空機部品、軽機械、医療機械、ベアリング、陸用内燃機関、産業機械の7業種となった(4月は9業種)。他方、電子計算機、民生用電子機械が40%台の低い水準にある。

図表11 上位21業種の輸出額の動き

(単位:億円、%)

2018/3				2018/4				2018/5				対08/5 比
業種名	金額	伸び率	シェア	業種名	金額	伸び率	シェア	業種名	金額	伸び率	シェア	
自動車	16,478	4.5	34.0	自動車	15,793	10.3	35.6	自動車	13,166	7.9	33.2	0.86
産業機械	9,588	8.6	19.8	産業機械	8,219	7.0	18.5	産業機械	7,814	9.6	19.7	1.08
電子デバイス	3,428	4.3	7.1	電子デバイス	3,373	4.2	7.6	電子デバイス	3,183	8.1	8.0	0.79
軽電気機械	2,671	▲0.5	5.5	軽電気機械	2,465	4.3	5.6	軽電気機械	2,281	10.6	5.7	0.98
重電気機械	2,354	6.9	4.9	重電気機械	2,191	9.1	4.9	重電気機械	1,993	10.4	5.0	0.97
軽機械	1,906	7.4	3.9	軽機械	1,711	4.8	3.9	軽機械	1,624	11.1	4.1	1.24
船舶	1,667	▲32.9	3.4	船舶	1,606	29.0	3.6	民生用電子機械	1,378	14.1	3.5	0.43
建設機械	1,514	12.3	3.1	建設機械	1,423	21.8	3.2	建設機械	1,214	16.9	3.1	0.79
民生用電子機械	1,468	▲5.7	3.0	民生用電子機械	1,370	▲4.0	3.1	光学機械	1,120	▲10.3	2.8	0.89
光学機械	1,377	▲6.8	2.8	光学機械	1,181	▲11.7	2.7	船舶	1,041	▲38.8	2.6	0.72
工作機械	1,177	39.5	2.4	工作機械	830	24.3	1.9	工作機械	743	6.7	1.9	0.90
航空機部品	746	▲10.2	1.5	航空機部品	630	▲10.6	1.4	航空機部品	702	7.5	1.8	2.04
通信機械	597	▲11.8	1.2	通信機械	573	2.8	1.3	通信機械	520	18.1	1.3	0.59
医療機械	578	7.2	1.2	陸用内燃機関	443	14.8	1.0	医療機械	433	12.8	1.1	1.22
陸用内燃機関	504	11.2	1.0	医療機械	432	8.8	1.0	陸用内燃機関	425	16.9	1.1	1.14
ベアリング	472	3.5	1.0	ベアリング	426	7.3	1.0	ベアリング	393	8.4	1.0	1.16
電子計算機	425	▲11.7	0.9	電子計算機	374	▲10.6	0.8	電子計算機	369	▲6.9	0.9	0.41
繊維機械	271	20.6	0.6	繊維機械	200	0.1	0.5	繊維機械	218	14.0	0.5	0.88
農業機械	236	8.0	0.5	農業機械	198	4.6	0.4	農業機械	198	15.7	0.5	0.98
鉄道車両	144	▲11.2	0.3	産業車両	129	13.6	0.3	鉄道車両	163	▲11.6	0.4	2.05
産業車両	140	16.0	0.3	鉄道車両	128	▲2.2	0.3	産業車両	114	10.6	0.3	0.53
21業種合計	47,741		98.6	21業種合計	43,697		98.6	21業種合計	39,091		98.4	0.88

は2ヶ月以上連続で10%以上増加。・産業機械:半導体製造装置、印刷・製本機械、風水力機械、タービン
 ・民生用電子機械:デジカメ、TV、部品 ・電子計算機:パソコン、HDD・プリンター等部品 ・軽機械:試験・検査機、理化学用機器
 ・軽電気機械:白物家電、電子計測器、配電機器、電池 ・光学機械:その他の光学機器(半導体検査装置、レーザー等)、カメラ部品
 ・通信機械:通信機械部分品、受信変換・その他送受信機器

(5)機種別動向～電動機等が大幅増、船舶、発電機等が大幅減～

1)10%以上の伸び率を示した機種のうち上位10機種は、①中国、EU向け**電動機**(25.8%増)、②中国、韓国・台湾向け**半導体製造装置**(23.4%増)、③中国、ASEAN・南アジア向け**コンデンサー等部分品**(23.3%増)、④北米、中国向け**電池**(22.5%増)、⑤中国、韓国・台湾、ASEAN・南アジア、北米向け**電気・電子計測器**(20.0%増)、⑥北米、EU向け**TV**(19.4%増)、⑦中国向け**通信機械部分品**(19.1%増)、⑧北米、その他地域向け**建設機械**(16.9%増)、⑨北米、中国、EU向け**陸用内燃機関**(16.9%増)、⑩北米向け**農業機械**(15.7%増)であった。

2)一方、最も落ち込み幅が大きいのが、船舶(38.8%減)、発電機(33.2%減)等であった。

図表12. 伸び率上位機種(月50億円以上、前年比伸び率10%以上、10機種以内)

(単位:億円、%)

2018/3			2018/4			2018/5		
機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率
工作機械	1,177	39.5	船舶	1,606	29.0	電動機	180	25.8
電動機	220	24.9	工作機械	830	24.3	半導体製造装置	2,331	23.4
原動力機械	694	23.6	建設機械	1,423	21.8	コンデンサー等部分品	812	23.3
繊維機械	271	20.6	電池	516	19.0	電池	484	22.5
半導体製造装置	2,738	16.8	電動機	190	18.7	電気・電子計測器	427	20.0
その他の重電気機器・部分品	561	16.0	半導体製造装置	2,324	18.0	TV	97	19.4
産業車両	140	16.0	電気・電子計測器	471	17.8	通信機械部分品	217	19.1
建設機械	1,514	12.3	乗用車	9,547	16.1	建設機械	1,214	16.9
TV	122	12.3	陸用内燃機関	443	14.8	陸用内燃機関	425	16.9
陸用内燃機関	504	11.2	産業車両	129	13.6	農業機械	198	15.7
機種合計	7,941	*16.4%	機種合計	17,481	*39.4%	機種合計	6,385	*16.1%

は、2ヶ月連続で上位機種 * 機種合計の%は輸出額に占める割合
 通信機械部分品:ゲートウェイ、ルーター等 受信変換・その他送受信:ルーター、LANスイッチ等ネットワーク関連機器

図表13. マイナス伸び率上位機種(月10億円以上、10%減以上、10機種以内) (単位: 億円、%)

2018/3			2018/4			2018/5		
機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率
船舶	1,667	▲ 32.9	受信変換その他送受信機器	111	▲ 21.4	船舶	1,041	▲ 38.8
通信機械部分品	191	▲ 20.3	その他の光学機器	973	▲ 14.6	発電機	59	▲ 33.2
受信変換その他送受信機器	164	▲ 19.9	デジカメ・ビデオ	311	▲ 13.6	原動力機械	306	▲ 22.4
磁気カード・ディスク等	144	▲ 18.8	磁気カード・ディスク等	127	▲ 12.8	金属加工機械	224	▲ 16.1
デジカメ・ビデオ	329	▲ 16.4	産業用ロボット	200	▲ 12.7	その他の光学機器	906	▲ 13.8
電気・電子計測器	485	▲ 14.5	航空機部品	630	▲ 10.6	鉄道車両	163	▲ 11.6
発電機	66	▲ 13.3	電子計算機	374	▲ 10.6	機種合計	2,699	* 6.8%
電子計算機	425	▲ 11.7	機種合計	2,727	* 6.2%			
鉄道車両	144	▲ 11.2						
航空機部品	746	▲ 10.2						
機種合計	4,361	* 9.0%						

は、2ヶ月連続でマイナス上位10位内 * 機種合計の%は輸出額に占める割合

(6) 機械輸入動向～電子デバイス、航空機・部品等、自動車部品等が大きくプラス～

- 1) 5月の機械輸入伸び率は11.6%増と15ヶ月連続でプラスとなり、上位12機種のうち10機種がプラスとなった。そのうち電子デバイス(10.9%増)、航空機・部品等(約2倍)、自動車部品(11.7%増)、風水力機械(24.7%増)の4機種が二桁以上のプラスであった。上位12機種のうち、マイナスとなったのは、電子計算機(5.8%減)、受信変換・その他送受信機器(7.5%減)の2機種であった。
- 2) なお、輸入額が輸出額を上回っている機種は金額順に航空機・部品等、電子計算機、携帯電話、白物家電、医療機械、配電機器、受信変換その他送受信機器、時計、TVの9機種となっている。
- 3) 地域別機械輸入額は、全体の35%を占める中国(4.5%増)、ASEAN・南アジア(8.7%増)、北米(36.4%増)、EU(9.5%増)、韓国・台湾(13.4%増)、その他地域(13.0%増)の順であった。

図表14. 機械輸入額上位12機種 (単位: 億円、%)

2018/3				2018/4				2018/5			
機種名	金額	伸び率	シェア	機種名	金額	伸び率	シェア	機種名	金額	伸び率	シェア
電子デバイス	2,237	▲ 3.6	10.7	電子デバイス	2,132	5.4	11.3	電子デバイス	2,312	10.9	10.8
電子計算機	2,136	0.5	10.2	電子計算機	1,704	0.1	9.1	航空機・部品等	1,741	104.6	8.1
乗用車	1,337	44.4	6.4	携帯電話	1,253	▲ 4.1	6.7	電子計算機	1,657	▲ 5.8	7.7
航空機・部品等	1,244	26.1	6.0	自動車部品	1,064	8.0	5.7	自動車部品	1,225	11.7	5.7
携帯電話	1,190	1.4	5.7	乗用車	1,007	3.4	5.4	乗用車	1,184	7.4	5.5
自動車部品	1,114	▲ 7.0	5.3	航空機・部品等	948	12.6	5.0	携帯電話	1,056	4.2	4.9
医療機械	719	▲ 7.3	3.4	白物家電	713	0.1	3.8	白物家電	894	5.7	4.2
白物家電	665	▲ 14.3	3.2	医療機械	633	2.7	3.4	医療機械	639	2.1	3.0
半導体製造装置	560	38.1	2.7	配電機器	548	9.6	2.9	配電機器	615	9.0	2.9
配電機器	553	▲ 10.1	2.6	受信変換その他送受信	445	▲ 11.8	2.4	受信変換その他送受信	529	▲ 7.5	2.5
受信変換その他送受信	534	▲ 13.9	2.6	その他の配電制御装置	369	▲ 0.8	2.0	風水力機械	424	24.7	2.0
その他の配電制御装置	379	▲ 10.6	1.8	風水力機械	349	15.2	1.9	その他の配電制御装置	421	3.8	2.0
12機種合計	12,668		60.7	12機種合計	11,165		59.4	12機種合計	12,697		59.1

は対前年比が2ヶ月連続で10%以上増加。・白物家電: 民生用電気機械

・受信変換その他送受信機器: ネットワーク関連機器 ・その他の配電制御装置: スイッチ、配電盤、制御盤等